

---

**俺T U E E E、に憧れたこともありました。**

フラフラ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

俺TUEEE、に憧れたこともありました。

### 【Nコード】

N7810X

### 【作者名】

フラフラ

### 【あらすじ】

ある時突然異世界に迷い込んだ青年。

バランス悪いにも程があるステータスを引っさげて、今日も頑張つて生き抜きましょう。

主人公は基本戦えません。武器も作れません。それでは何が出来るかというところ…

ああわかってたさ。現実には甘く無い。(前書き)

初めまして。フラフラと申します。

小説初投稿です。

名前の通り移り気なもので亀更新が予想されますが、よろしければ暇つぶしにでも使ってください。

ああわかってたさ。現実には甘く無い。

風が強い。

凍てつくような風が容赦なく俺を襲う。

だが、そんな風にもすっかり慣れてしまった俺は特に何とも思わずに自分の家へと足早に歩いて行く。

「…うわっ、本当に寒みーな今日。」

訂正、ちょっと寒い。

まして、辺りはゴロゴロと岩が転がっているだけの殺風景な景色である。

あああ…霧まで出てきた…

「ただいま〜っど。」

声を出しながら家に潜り込むが返事は無い。

いやまあ一人暮らしの家で返事があつたらあつたで怖いが。

この家は、俺がこの世界に来て見つけたボロ小屋を補修して使っているものだ。

雨風を凌ぐ我が家としてありがたく棲ませて貰っている。

最初は余りのボロさに引いたが、まあなんだ、住めば都である。

そう、《この世界》。

俺は約二年前にこの世界にやってきた。

やってきたというか気づいたらいたのだが。

もともと、地元の大学に通う貧乏学生だった俺はその日も生活費のためにバイト先に向かっていった。

あの日もまた今日のように強い風が吹いた事を覚えている。

寒っ！！っと思って顔を上げるとそこには荒涼とした岩の楽園。

…正直、理不尽にも程がある。

しばらく（半日はかかった。今考えると結構壮大なしばらくだ）茫然自失だった俺だが、  
なんとか我に帰り、現状整理を始め、何だかんだで食料を見つけ、何だかんだで生き抜いてきたのだった。

ん？説明が適當？

いや、何とか生存の目処が立つまでの慌てまくりで情緒不安定の俺の話なんかつまらんし。

…ぶっちゃけ恥ずいんです。

ここがもといた世界と違うという事は割とすぐに納得した。

蛍光色のライトブルーの木なんてあつてたまるか。

また、一番の違いはステータスウィンドウだ。

なんだその目は。俺は二次元と三次元の区別くらいつけられるぞ。

ある日、自分の状態をパツと確認出来たら便利だろうなあ、と思つたらでたんた。

こう、目の前に半透明の窓が。

ビックリした。

ビックリした。

まあ、内容の方がビックリしたが。

```
name:リヨウ・アズマ
race:竜人
Lv:11
HP:45962
MP:5600
status
str:30
vit:75
agi:32
int:99
wis:6588
```

Skill: 《竜の皮膚》  
ドラゴンスキン

毒、炎熱ダメージ無効化

状態異常耐性E X +

魔法耐性A

物理耐性B

…ええ

バランス悪っ。

ああわかってたさ。現実には甘く無い。(後書き)

長い文章って難しいですね



一人は寂しいのです。(前書き)

長い文が書けないく!!  
困ったなあ

一人は寂しいのです。

ええ〜

いや、ええ〜

おかしい、絶対おかしい。

何がどうなったら魔法抵抗力（多分）だけ二桁違う数字になるんだよ…

しかも物理抵抗力も地味に他より高いし…

うーん…でもまあ今のところ日常生活において不便はないんだよなあ…

ハッ！これはまさか魔法抵抗が一際高いだけで実は全般的に高いという俺TUEEEフラグなのでは…

…まあ、んなこたあ無いと思うけどね。

ってかそれより種族：竜人ってなによ。

俺はまごうことなき人だったはずだ。

まあ、異世界に来ておいて今更だが。

何だかんだでこの世界にやってきてから約二年が経過している。

二年もあれば俺にだって辺りを探検する勇気の一つも湧いてくる。

結果、ここは山の上だということが判明した。

確かにやたら寒いし霧も多いと思ってはいたが…山とはね。

食料は小屋の近くにある何だか知らないがやたら甘い匂いの果実と湖の魚、とそこの水を中心とした数種類の食材でやりくりしている。

時々山を少しばかり下っては木の枝をゴツゴツ拾って来て薪にしている。

ちなみに火種は一年半前の落雷である。

どう考えても発狂しそうに退屈な生活だが、最近は趣味を見つけた。

例のライトブルーの木だが、あれの葉っぱをすりつぶした液体と甘い匂いの実を混ぜると、非常に辛いペーストになる事を発見した。

このように、このあたりの植物や生物は混ぜると面白いことになる物が多く、俺は新たな発見を目指して日々調査に精をだしている。

出来上がったなかでも特に面白いのはひょうたんのような木の実にためてある。

ここのところ、ひょうたんの数もだいたい増えてきていて古屋の中を切迫し始めている。

捨てるのは論外だし、どうしようかな…

フウーハハハハハハハハハハハハハハハハ（以下r y

俺がこの世界に来て…ええい面倒臭い！

異世界三年目。

ある日、俺は小屋の中の整理をすべく両手一杯にひょうたんもどきを抱えて部屋を出ようとしていた。

すると…

ドカンッ！！（足を壁に強打）

うおおあー！！（悲鳴）

バツカーン！ゴロゴロ…

（壁を突き破ってどこかの空間に転げ落ちる）

いだだだだ…

両手一杯に物を持っていたら壁を蹴破ってしまった。

足下が見えないと危ないな。

まあ、壁の穴は後で塞いどこう。

問題は、だ。この空間だよなあどーみても。

今まで二年住んでたけど初めてしっ…

小屋の地下にはそこそこ広い地下室が存在していたようだ。

暗くて中の様子は解りづらいが、何やら大量の物が投げ出され、雑然とした空間である。

恐る恐る歩き出した俺の足が、三歩目にして何か<sup>チキン</sup>に当たる。

コオンという澄んだ音が響いた。

これは…フラスコ？

かがみこんで拾い、眺めてみる。

うん、間違い無くフラスコである。

目を凝らすと部屋の四方は古臭いが立派な棚で埋められ、その上には所狭しと試験管やらビーカーやらの実験器具が並べられていた。

おいおいおい…何ですかこのマッドサイエンティストの部屋みたいなところ。

なんか液体が溜まったままになってる試験管も多いし…

あれ、でもこの実験器具群に俺の混ぜ合わせコレクションを入れれば…

…ニヤリ



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7810x/>

---

俺TUEEE、に憧れたこともありました。

2011年10月21日07時18分発行